

令和元年第12回浅口市教育委員会議事録

1. 招集日時 令和元年11月22日(金)

2. 場 所 浅口市中央公民館第3会議室

3. 開 会 午後3時30分

4. 閉 会 午後4時46分

5. 出席者 中野留美 佐藤賢次 中務美保子 藤澤弘幸 高戸崇

6. 説明のために出席した者の氏名

教育次長	小山朋子	教育総務課長	難波勝敏
学校教育課長	村下徹	こども未来課長	笠原清美
文化振興課長	清水房恵	生涯学習課長	瀬良昌弘
金光分室長	中嶋利恵	寄島分室長	田中太志
学校給食センター所長	山本峯廣		
教育総務課	垣内巧子(事務局)		

7. 傍聴人 なし

8. 議 事

日程1 議事録署名委員について

浅口市教育委員会議規則第29条により藤澤委員を指名。

(了承)

日程2 会期について

本日11月22日の1日会期

(承認)

日程3 本会議の通知後に、「浅口市文化部活動の在り方に関する方針の策定について」議案提出があったため追加議案とすることを諮る。

(承認)

議案第36号 準要保護の認定について

(学校教育課長)
資料により説明。
※非公開

(承認)

日程 4 議案第 37 号 準要保護申請書の様式変更について

(学校教育課長)

資料により説明。

就学援助費交付申請書の新様式には、口座振替依頼項目を加え、民生委員の所見を省いた。民生委員の所見については、「求めることができる。」こととなっており、民生委員の所見がない市町がほとんどである。

(教育委員)

新しい様式は、いつから使用するのか。民生委員の所見を求めないとなると、民生委員は担当地区で就学援助を受けている家庭を把握できるのか。

(学校教育課長)

令和 2 年度の対象者からを予定しており、新入学児等の認定申請には、新様式を配布したい。

(教育長)

民生委員の所見が必要な場合は、保護者から民生委員へ援助を求めることで、関係性が築ける利点もある。新様式になれば、民生委員は担当地区で就学援助を受けている家庭を把握できない場合もあると思う。

(教育委員)

民生委員からは、就学援助費申請時の民生委員の所見が、大きな負担となっているとも聞いているが、担当地区で就学援助が必要な家庭の把握は、難しくなると思う。就学援助費申請時に民生委員の所見が必要なために申請を躊躇する家庭もあるのではないだろうか。

(教育委員)

透明性の観点から、基準がはっきり説明できるものでなくてはならない。除いてもよいと思う。

(学校教育課長)

新様式については、規則の改正が必要となる。新様式等の記入例等も準備する。

(承認)

- 日程 5 議案第 38 号 「浅口市文化部活動の在り方に関する方針の策定について
(学校教育課長)
資料により説明。
(教育委員)
運動部も文化部も部活動としての意義は変わらないと思う。
(教育長)
文化部活動については、運動部活動に準じた活動をしており、方針策定により体裁が整った。これにより学校としての方針を作る事となる。

(承認)

- 日程 6 諸般の報告について
(学校教育課長)
平成 30 年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果概要について状況説明。

(文化振興課)
英語スピーチコンテストの結果について報告。

(生涯学習課長)
1 月 12 日 (日) 13 時 30 分からサンパレアでの、成人式を開催、臨席を案内。

(金光分室長)
12 月 15 日 (日) 金光公民館での、第 18 回金光キッズフェスティバルの開催案内。

(寄島分室長)
12 月 8 日 (日) 浅口市マラソン大会を三ツ山スポーツ公園で午前 9 時 20 分から開催。応募状況と臨席を案内。

- 日程 7 その他について

(学校教育課長)

令和元年度第4回学校訪問の日程調整。

1月18日(土)にきらきら賞授賞式を予定。

(教育委員)

まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会に出席した。答申の教育委員会に関係していることについて、報告しておく。放課後児童クラブについて、長期休暇にニーズが高まることから、一時的に支援員等を増やすなど対応すること。また、転校児童のサポートも実施する。子ども子育てコンシェルジュの活動、放課後児童クラブの待機児童なしの取り組みは、大変良い施策であることから、市内外に積極的にPRし、人口の流入の糸口にしていくこと。全ての事業においてPR活動を強化していくことが答申にもりこまれた。

(教育委員)

来年度の幼稚園の応募状況について、現状の説明を求める。

(こども未来課長)

来年度進級児を含めた10月末の状況で、金光幼稚園は、3歳児16名、4歳児21名、5歳児17名の計54名、鴨方東幼稚園は、4歳児9名、5歳児11名の計20名、鴨方西幼稚園は、4歳児3名、5歳児4名の計7名の予定だ。

(教育委員)

通園区域を外し、金光幼稚園に3歳児を受け入れることとしたが、どのような状況なのか。

(こども未来課長)

金光幼稚園の3歳児16名には、東小学区2名と西小学区1名が含まれている。鴨方西幼稚園については、4歳児3名の内訳は、東小学区2名と六小学区1名、5歳児4名の内1名は、東小学区の子が含まれている。園庭解放等を行ったのも効果があったのではないだろうか。

(教育委員)

鴨方西幼稚園の4歳児には、西小学区の子がいないようだが、幼稚園の広域化の効果はでてきているようだ。

(教育委員)

市内の0歳児、1・2歳児の受入ができる園は限られている。

3歳未満児に特化した受け入れを検討できないか。

(こども未来課長)

年齢による受け入れ基準があり、面積基準と保育士配置基準がある。保育士配置基準は、0歳児が3人に1人、1・2歳児が6人に1人、3・4・5歳児は、20人に1人となっている。1人あたりの基準面積は満たされているが、保育士の配置が難しい。

(教育長)

岡山市町村教育委員会連絡協議会研修会について参加者2名の報告を求める。

(教育委員)

千々布敏弥講師の講演について、学力上位県と学力下位県についての教員の特徴を示された。岡山県は低い方だが、学力下位県では、教員が答えをもとめがちだとのことだが、学力上位県にはやる気のある教員が多い。教員のやる気を引き出すのは校長の役割だといわれ、校長自身のやる気と意気込みも要因となるといわれたことが、印象的だった。分科会には、「学力向上対策について」に参加した。小中一貫教育に取り組んでいるところが多く、中学校区で説明会をしており、地域住民の希望に沿って、説明会は土日に開いているというところもあった。小中一貫教育については、予算の裏づけも必要であり、教育関係者は、保護者を含めた住民に対して、小中一貫教育の長所・短所について説明できなければならない。義務教育学校については、何を求めているかの目的が、全ての地域住民が納得いくものであるかどうか。小中一貫教育の先進地では、問題行動が減ったそう。小学校・中学校の文化が一つになり、新しい文化が生まれているようだ。小中一貫教育にこだわることなく、地域に効果のある教育形態が求められ、自分達で作っていくことが重要だと感じた。

(教育委員)

講演については、教育委員会の学校指導に対する心得を示された。学校は自己改善の意欲に欠けるところがあり、指示により変わるものではない。校長にどうゆう学校にしたいかを示させ、主体性を尊重した指導が求められる。答えを求めがちではあるが、答えは相手にある。変わらない教員に対して

は、誘導等によりグループで答えを引き出していくことも重要だと、いわれた。分化会は「教員の働き方改革について」に参加した。玉野市の取り組みについて説明されたが、目新しいことはなく、鴨方東小学校の取り組みと、にたりよったりであった。鴨方東小学校でのコミュニティ・スクールの推進と働き方の取り組みについて質問があり、浅口市の状況についてはわかる範囲で説明した。来年度からの会計年度任用職員制度のことを質問したが、玉野市では、試算中ではあるが、経費面では大きくは変わらず、従来の人員配置ができそうだとのことだった。

次回教育員会議

令和元年 12 月 17 日 (火)

中央公民館で開催

令和 元年 12 月 17 日

浅口市教育委員会

教 育 長 中野留美
委 員 藤澤弘幸
作成職員 垣内巧子